

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

発表!  
第23回  
杉野十佐一賞!

2019

1

決定！ 第23回 杉野十佐一賞！ 4

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし 26

会員雑詠集「無人駅」 29

■例月句会結果■

おかじょうき川柳社 川柳忘年会 2018 19

十和田たてがみ川柳会 9月句会報 47

■作品鑑賞■

—奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘 46

■連載エッセイ■

リレーエッセイ「途中下車」 まみどり 38

# 杉野十佐一賞

題「黒」

すぎのときさいち▼昭和26年におかじょうき川柳社を設立。没年の昭和54年まで初代代表として多くの作家を育成。永年にわたる川上三太郎との親交から童飛岬の三太郎句碑建立に尽力。  
【集計方法】点数は、各選者の特選を5点、秀逸3点、佳作1点とし、同点の場合、より高い位に選ばれているものが上位。

■第23回杉野十佐一賞 大賞作品■

〔9点〕(特)ちえみ(佳)政二・由紀子・康浩・むさし

別室の黒羊羹はどうなるの

吉松澄子

(愛媛県松山市)



【受賞の言葉】

憧れの賞をいただきありがとうございます。夢のようで何度もメールを確かめました。子どものころから空想の世界で遊ぶのが好きで、そんな作品に惹かれます。「黒羊羹」は、ふつと、「どうなるの」は、ぽつと、イメージが広がりました。ちょっと幼いかなあ、と迷いましたが「別室」を得て、ほつとしました。あ、あの黒羊羹は、その後どうなったのでしょうか。あれは特別な黒羊羹でしたよ。思いがけず評価していただき感謝申し上げます。ありがとうございます。

別室の  
黒羊羹は  
どうなるの  
澄子

【準賞・8点】

(特) れいこ (佳) 政二・ちえみ・むさし  
黒鍵のすきまに鳥がいた昨日

北海道 澤野優美子

【7点】

(特) 康浩 (佳) れいこ・由紀子  
黒板をかつぎ退職いたします

静岡県 句ノ一

(秀) ちえみ・むさし (佳) 康浩  
何だろう黒いおつりを貰ったよ

福井県 天谷由紀子

(秀) 由紀子 (佳) 政二・れいこ・ちえみ・むさし  
おもしろい黒になるまでかき混ぜる

秋田県 佐々木智恵子

【6点】

(特) むさし (佳) れいこ  
あの日見た父はかすれたバーコード

大阪府 浅井ゆず

(秀) れいこ (佳) 由紀子・ちえみ・康浩  
コーヒーはブラツク的な漢和辞典

東京都 飯島章友

【5点】

(特) 政二  
黒がいい もう充分に生きたから

宮城県 須川柊子

(特) 由紀子  
イマジンを聞きながら黒になる切手

高知県 大野美恵

(秀) むさし (佳) 由紀子・ちえみ  
火縄銃に込める丹波の黒豆

岡山県 木下草風

(秀) ちえみ (佳) 政二・れいこ  
黒のこと抱きしめてみてしたたるから

三重県 山口亜都子

(秀) 政一 (佳) 康浩・むさし  
ときどきは白に相談してる黒

京都府 西田雅子

(秀) れいこ (佳) 由紀子・ちえみ  
天啓と水羊羹の舌ざわり

秋田県 赤石ゆう

(秀) むさし (佳) 政二・れいこ  
「ん」の続きあるので点をうたないで

青森県 中村誠子

(秀) むさし (佳) れいこ・康浩  
梟の闇にふたご座流星群

岩手県 徳田ひろ子

(秀) れいこ (佳) 政二・むさし  
叱られて小さな黒い点になる

長野県 興津幸代

(秀) ちえみ (佳) 政二・由紀子  
つれづれなるままに黒ずみましようよ

東京都 伊藤こうか

(秀) 康浩 (佳) 政二・ちえみ  
黙り込むみんな黒には恩があり

大阪府 小原由佳

(佳) 政二・れいこ・ちえみ・康浩・むさし  
こうみえて黒はけっこうおひとよし

高知県 萩原良子

【4点】

(秀) 由紀子 (佳) ちえみ  
黒文字で五大老に切り分ける

愛知県 中川喜代子

(佳) れいこ・由紀子・ちえみ・むさし  
ともすれば舌から黒くなりますよ

神奈川県 岡田弘子

(佳) れいこ・由紀子・ちえみ・康浩  
刑に処す全部32分音符

山梨県 加藤当白

【3点】

(秀) 康浩  
エンドロールでは黒の修理に追われ

東京都 柳本々々

(秀) 康浩  
公文書がブルカを着けてやってくる

青森県 滋野さち

(秀) ちえみ  
お父ちゃん濡れたら泥に戻るで

滋賀県 北村幸子

(秀) 康浩  
腹黒い二人で見てるショーケース

大阪府 小原由佳

(秀) 由紀子  
漆黒を宇宙くじらに隠そうか

兵庫県 妹尾 凜

(佳) 政二・ちえみ・むさし  
走ったら追いつけなかも知れぬ黒

愛知県 前田ゆうこ

(佳) 政二・れいこ・ちえみ  
玄関に揃えてあげる今日の黒

徳島県 徳長 怜

(佳) 政一・れいこ・由紀子  
春の野の黒い帽子のひとになる

滋賀県 重森恒雄

(佳) れいこ・ちえみ・康浩  
墮天使、チャリで向かつてるつていま

兵庫県 宮沢 青

(佳) れいこ・由紀子・康浩  
八咫鳥マークシートな歩き方

(佳) 政二・むさし  
暗闇で握った黒が生温い

(佳) れいこ・由紀子・むさし  
喪服着て全部なかつたことにする

(佳) 政二・むさし  
水辺へと手負いの黒をつれてゆく

(佳) れいこ・ちえみ・むさし  
会釈するブラックアウトしたままで

(佳) 政二・由紀子  
ファブリーズするドラキュラの黒マント

(佳) 政二・由紀子・ちえみ  
もうちよつと黒になつたら入れたげる

(佳) 政二・ちえみ  
大人でも子供でもなく黒さとう

(佳) 政二・れいこ・康浩  
影法師畳めばほんの一握り

(佳) 康浩・むさし  
会長の後ろに黒い哺乳瓶

(佳) 由紀子・ちえみ・康浩  
ガラガラポン落ちてきたのはルドンの眼

(佳) 政二・由紀子  
八月のぬり絵に黒をよく使う

(佳) 由紀子・ちえみ・康浩  
思い出はイカスミだつて恥ずかしい

(佳) れいこ・ちえみ  
ミルク飲む 少しグレーになつて寝る

(佳) 政二・康浩・むさし  
黒で書く本音と黒で消す本音

(佳) 由紀子・康浩  
あつちつちダルメシ안의黒いとこ

(佳) 由紀子・康浩・むさし  
旧姓と向き合うブラックコーヒー

(佳) 政二・れいこ  
影が通ります生まれ変わります

【2点】

(佳) れいこ・由紀子  
由緒正しい黒で鳩など棲まわせる

(佳) ちえみ・康浩  
困つたものよ仄暗いのが出て行かぬ

(佳) 政二・由紀子  
黒豆になつてかすれて行きました

(佳) 由紀子・ちえみ  
泣きじやくろうチクろうタクろう中目黒

(佳) れいこ・ちえみ  
ロボットと黒い接吻して暮らす

(佳) 由紀子・ちえみ  
ブラックペッパー何者だつたのか

【1点】  
Tシャツ黒だとなんか落ち着くわ

(佳) ちえみ・むさし  
帯は黒 立ちどまつてはいられない

墨を磨る 絹を一枚ずつ脱がせ

(佳) 政二・れいこ  
安らかに眠りなさいと黒がくる

奥深くシャットダウンをまさぐりぬ

(佳) れいこ・むさし  
父さんのピースのにおい黒電話

淋しくて笑う 前歯に海苔付けて

(佳) 由紀子・むさし  
ひよいと手を伸ばすと戦争につきあたる

そのままのまま 進行形の黒

(佳) ちえみ・むさし  
前頭葉から黒百合咲いたつて

火のにおいさせたまんまの黒でいる

(佳) れいこ・むさし  
クロネコの尻尾を踏んで待たせてる

あきらめの悪い私の中の黒

(佳) ちえみ・康浩  
黒鉛をひとつもらつて別れたが

もう過ぎたことです黒く塗りましょう

(佳) 政二・ちえみ  
わたしだとわかる黒子が一つある

解答をみんな揃えたブラックホール

(佳) 政二・れいこ  
逆光のひまわり一本ふり返る

ほらここが黒くなつてるから死ぬる

(佳) 由紀子・康浩  
黒星3つ残り12はやややや

掠れ筆森はますます深くなる

滋賀県 北村幸子

黒の中へ消えてゆくのは痛くない

愛知県 伊賀武久

流木が横たわつてる膝がしら



ただ黒は白を愛したかっただけ  
 まあいいか背黒鱈にされちゃった  
 金髪でうたってならぬヨイトマケの唄  
 黒いです本能消した充電器  
 ほんのりと黒みを帯びて 風土性  
 何もかも承知で父は黒でいる  
 おひかえなすって右太ももの黒揚羽  
 ゴチックが急に襲つてくるのです  
 日蝕のゆらぎの闇になでられる  
 時代から取り残された黒である  
 日焼けした頬これからも信じるよ  
 月光に影 ん 黒子ではないか  
 アンタはアンタやと陀羅尼助が黒い  
 どうってことないと言いつつてからの黒  
 いただいた朝にもちゃんという鴉  
 頼ったり頼られたりつく焦げ目  
 悲しみを笑いに変えてきたホクロ  
 もう少しで黒になります大人です  
 叩いても叩いてもファソラのシャープ  
 切札の泣き黒子なんぞおまへんね  
 描けるかな黒が不在の絵の具箱  
 泣きそを閉じ込めているジェットのパラス  
 温い話をたっぷり聞いた黒電話

福岡県 もりともみち  
 青森県 坂本清乃  
 北海道 木暮健一  
 東京都 星出冬馬  
 北海道 木暮健一  
 福井県 奥村美枝子  
 島根県 石橋芳山  
 愛知県 安藤なみ  
 大阪府 小川佳恵  
 和歌山県 木本朱夏  
 京都府 和田洋子  
 石川県 岡本 聡  
 滋賀県 峯裕見子  
 東京都 伊藤こうか  
 青森県 岩崎真里子  
 青森県 熊谷冬鼓  
 岩手県 鷹嘴 関雄  
 岩手県 熊谷 岳朗  
 愛媛県 郷田 みや  
 滋賀県 村井隆行  
 三重県 山口重都子  
 京都府 竹内知子  
 大阪府 本多洋子

黒は黒白は白です南無阿弥陀  
 ハンカチに包んだ黒が滲み出す  
 黒板は緑になった 痒くなる  
 引き金はたしかに黒いチューリップ  
 引き波のにおいは底のない闇夜  
 家系図に黒毛和牛とありました  
 やわらかい洞窟に入ってくる岬  
 おあつらえそこに包丁ありました  
 並んだ背の同じ黒ではない喪服  
 どよめきの漆黒になるまで 湾に  
 黒紋付の案山子 一体用意する  
 黒塗りの文書に白い闇がある  
 百歳まで生き抜く黒の無重力  
 黥面文身鼻の穴から蕎麦の花  
 泣き黒子お天道様にあるらしい  
 黒よりも淋しい夜のマンドリン  
 ああ見えて肚黒だったんだ ススキ  
 いつの日か笑い飛ばしてみたい黒  
 生意気なミック・ジャガーのヘアヌード  
 黒猫を抱いて彦乃になる今宵  
 白黒をつけて安眠豆もやし  
 踊りましょ黒い夢の中でまた  
 ガラケーと言うからスマホは黒である

青森県 稲見 則彦  
 京都府 西田 雅子  
 福井県 酒井 暁美  
 愛媛県 吉松 澄子  
 大阪府 宮井 かずみ  
 鳥取県 斉尾 くにこ  
 青森県 守田 啓子  
 青森県 高橋 せい子  
 兵庫県 坪井 篤子  
 宮城県 勝又 明城  
 兵庫県 杉浦 まりこ  
 北海道 松本 秀  
 岡山県 小林 茂子  
 青森県 小野 五郎  
 高知県 森 乃 鈴  
 和歌山県 木本 朱夏  
 大阪府 上嶋 幸雀  
 埼玉県 野邊 富優葉  
 青森県 須藤 しのすけ  
 石川県 石倉 多美子  
 青森県 小山 田英子  
 京都府 蟹口 和枝  
 滋賀県 村井 隆行

ブラックコーヒー綾織の時間の  
 アクリルが発情したらしい 黒い  
 ウルトランマン諦め黒蜥蜴になった  
 敵ながらいい味を出す黒砂糖  
 黒々と塗り潰してもまだ私  
 黒い影をたたむ 一日の終わり  
 黒猫の尻尾ひよるひよる催眠術  
 墨吐いて生き延びるイカ介護一  
 ゴドー待つ 取ってみようか泣き黒子  
 腕まくりしている黒に賭けている  
 蜥蜴にも揚羽蝶にもなる喪服  
 モノクロのひまわり友達幻想  
 三毛は一途に憧れているクロネコヤマト  
 白いところも黒いところもある身体  
 輪郭が薄いよ黒を飲みなさい  
 排水口もブラック・ホールも情報過多  
 逃げ込んだ夜の扉が開く音  
 真夜中のシンガームシン亡母の音  
 礼服に殺虫剤が吹き溜まる  
 だんごむしだったアイドリソングだった  
 柔らかな黒はまどろむトルメキア  
 年齢不詳の男から焦げ目  
 夢二の黒猫きつと男でしょう

福井県 みつ木もも花  
 青森県 小野 五郎  
 新潟県 星井 五郎  
 愛媛県 大葉 美千代  
 青森県 ひ と は  
 兵庫県 山元 三恵子  
 長野県 樹 菊らき  
 愛媛県 重 岡 薫  
 静岡県 米山 明日歌  
 長野県 小池 孝一  
 静岡県 渡辺 遊石  
 愛媛県 高橋 こう子  
 大阪府 田口 和代  
 滋賀県 安井 茂樹  
 青森県 佐藤 雅秀  
 香川県 嶋村 幸  
 青森県 綿谷 夕雨子  
 大阪府 能登 和子  
 東京都 伊藤 三十六  
 熊本県 いわさき 楊子  
 愛知県 猫田 千恵子  
 青森県 奈良 一艘  
 愛媛県 三宅 淳子

青空を飛びつづけてもまだカラス  
 入り口に美輪明宏の黒蜥蜴  
 黒から生まれ黒に選つてゆくんだね  
 黒髪を失つてから放し飼い  
 黒を拾つてからのでこぼこの道  
 嫁ぐ子へ兵糧丸の作り方  
 天の川やる気スイッチ紛失中  
 何もなから黒く塗ることになる  
 きつぱりと言おう わたしは黒胡麻だ  
 蛇口から黒い噂さがぼとりぼとり  
 人愛すたびにわたしは焦げてゆく  
 一億二千万年過ぎてシダの黒光る  
 しらす干し億の目玉に億の海  
 支配者はハシブトさんとハシボソさん  
 ゆらゆらとひと息ついて黒になる  
 違いますアンタの黒とオレの黒  
 正露丸の黒とカラスの黒の差  
 愛憎のすべてをチャラにして喪服  
 ゴザウンのゴゾは妖しい黒子だな

三重県 小川はつこ  
 静岡県 米山 明日歌  
 京都府 蟹口 和枝  
 大阪府 能登 和子  
 福井県 みつ木もも花  
 埼玉県 野邊 富優葉  
 秋田県 一 帆  
 滋賀県 村片 芳子  
 京都府 谷 口 文  
 青森県 稲見 則彦  
 岩手県 熊谷 岳朗  
 大阪府 井上 文子  
 宮城県 渡辺 忠一  
 青森県 濱山 哲也  
 京都府 佐藤 暁音  
 奈良県 中村 せつこ  
 兵庫県 河内 谷恵  
 青森県 吉田 吹喜  
 愛知県 明名 蝶



徳永政二選

とくながせいじ／滋賀県・「びわこ番傘川柳会」所属

【佳作】

逆光のひまわり一本ふり返る  
影法師畳めぼほんの一握り  
黙り込むみんな黒には恩があり  
人愛すたびにわたしは焦げてゆく  
何もないから黒く塗ることに  
黒から生まれ黒に還ってゆくんだね  
夢二の黒猫きつと男でしょう  
黒豆になってかすれて行きました  
わたしだとわかる黒子が一つある  
白いところも黒いところもある身体  
黒のこと抱きしめてみてしたたるから  
黒で書く本音と黒で消す本音  
安らかに眠りなさいと黒がくる  
もうちよつと黒になつたら入れたげる  
「ん」の続きあるので点をうたないで  
踊りましょ黒い夢の中でまた  
いつの日か笑い飛ばしてみた黒

- |     |       |
|-----|-------|
| 滋賀県 | 北村幸子  |
| 大阪府 | 里山はるえ |
| 大阪府 | 小原由佳  |
| 岩手県 | 熊谷岳朗  |
| 滋賀県 | 村片芳子  |
| 京都府 | 蟹口和枝  |
| 愛媛県 | 三宅淳子  |
| 大阪府 | 谷口 義  |
| 滋賀県 | 安井茂樹  |
| 滋賀県 | 安井茂樹  |
| 三重県 | 山口亜都子 |
| 佐賀県 | 真島久美子 |
| 長野県 | 小池孝一  |
| 兵庫県 | 村井広子  |
| 青森県 | 中村誠子  |
| 京都府 | 蟹口和枝  |
| 埼玉県 | 野邊富優葉 |

春の野の黒い帽子のひとなる  
百歳まで生き抜く黒の無重力  
叱られて小さな黒い点になる  
八月のぬり絵に黒をよく使う  
黒は黒白は白です南無阿弥陀  
温い話をたつぷり聞いた黒電話  
描けるかな黒が不在の絵の具箱  
もう少しで黒になります大人です  
頼つたり頼られたりつつく焦げ目  
どうつてことないと言いつつからの黒  
玄関に揃えてあげる今日の黒  
時代から取り残された黒である  
何もかも承知で父は黒でいる  
黒鍵のすきまに鳥がいた昨日  
ただ黒は白を愛したかっただけ  
つれづれなるままに黒ずみましようよ  
大人でも子供でもなく黒さとう  
水辺へと手負いの黒をつれてゆく

- |      |        |
|------|--------|
| 滋賀県  | 重森恒雄   |
| 岡山県  | 小林茂子   |
| 長野県  | 興津幸代   |
| 新潟県  | 塩田悦子   |
| 青森県  | 稲見則彦   |
| 大阪府  | 本多洋子   |
| 三重県  | 山口亜都子  |
| 岩手県  | 熊谷岳朗   |
| 青森県  | 熊谷冬鼓   |
| 東京都  | 伊藤こうか  |
| 徳島県  | 徳長 怜   |
| 和歌山県 | 木本朱夏   |
| 福井県  | 奥村美枝子  |
| 北海道  | 澤野優美子  |
| 福岡県  | もりともみち |
| 東京都  | 伊藤こうか  |
| 青森県  | 笹田かなえ  |
| 徳島県  | 徳長 怜   |

フアブリーズするドラキュラの黒マント

黒の中へ消えてゆくのは痛くない  
暗闇で握つた黒が生温い  
影が通ります生まれ変わります  
別室の黒羊羹はどうなるの  
あきらめの悪い私の中の黒  
走つたら追い越せたかも知れぬ黒  
こうみえて黒はけつこうおひとよし  
おもしろい黒になるまでかき混ぜる

- |     |        |
|-----|--------|
| 愛知県 | 今村美根子  |
| 滋賀県 | 畑山美幸   |
| 新潟県 | 星井五郎   |
| 京都府 | 和田洋子   |
| 愛媛県 | 吉松澄子   |
| 福井県 | 天谷由紀子  |
| 愛知県 | 前田ゆうこ  |
| 高知県 | 萩原良子   |
| 秋田県 | 佐々木智恵子 |

【秀逸】

水たまり見つめ続けているカラス  
日常をうまい具合になぞる黒  
はつこいの学生服にあつホタル  
ときどきは白に相談してる黒  
想像をふくらませよと黒が言う

- |     |        |
|-----|--------|
| 奈良県 | ひとり静   |
| 秋田県 | 佐々木智恵子 |
| 福岡県 | 柴田美都   |
| 京都府 | 西田雅子   |
| 石川県 | 宮田喜美子  |
| 宮城県 | 須川柊子   |

◆選評

今回の選は、黒、黒、黒の毎日だった。もう黒について書くことはないのではと思えるほどであった。黒にこだわりの、黒を考え、黒との格闘であったらう。そして、集まった五三〇句、ありがたいことだと思ふ。

【秀逸】

水たまり見つめ続けているカラス  
「水たまり」と「カラス」の取り合わせが新鮮。  
そして、「カラス」を作者自身と読めば、「水たまり」の想像がひろがりおもしろい。

日常をうまい具合になぞる黒

長く生きているとだんだん黒くなつてくる。だから、その日常に合わせて生きる方が楽。「なぞる黒」、やはり黒には黒である。  
はつこいの学生服にあつホタル  
「はつこい」のひらがな表記もいいが、そのことより、学生服の黒に浮かんで消える「ホタル」がいい。  
「あつ」が生きている。

ときどきは白に相談してる黒

強そうに見える黒は、実はそうではなく、「どうしたらいいのか」と、これからをこつそり白に相談しているのである。  
川柳のユーモア。

想像をふくらませよと黒が言う

思わず「ハイ、そうします」と言つてしまふような黒の存在感。  
黒だからこそ想像をふくらませることができ、黒だからこそ成り立つ。まいったなあと思ふ。

【特選】

黒がいい もう充分に生きたから  
作者の現在の気持ちがあるまま伝わってくる。この「充分」を実感として読ませていただいた。  
いろいろなことが込められている人、それが黒。  
そう思うと味わい深い。



なかはられいこ 選  
なかはられいこ／岐阜県・「ねじまき句会」所属

【佳作】

こうみえて黒はけつこうおひとよし  
違いますアンタの黒とオレの黒  
影が通ります生まれ変わります  
由緒正しい黒で鶴など棲まわせる  
天の川やる気スイッチ紛失中  
クロネコの尻尾を踏んで待たせてる  
年齢不詳の男から焦げ目  
逆光のひまわり一本ふり返る  
排水口もブラック・ホールも情報過多  
三毛は一途に憧れているクロネコヤマト  
父さんのピースのにおい黒電話  
黒い影をたたむ 一日の終わり  
安らかに眠りなさいと黒がくる  
ブラックコーヒー綾織の時間の  
ロボットと黒い接吻して暮らす  
白黒をつけて安眠豆もやし  
喪服着て全部なかったことにする

高知県 萩原良子  
奈良県 中村せつこ  
京都府 和田洋子  
奈良県 太田のりこ  
秋田県 一 帆  
千葉県 老沼正一  
青森県 奈良一艘  
滋賀県 北村幸子  
香川県 嶋村 幸  
大阪府 田口和代  
愛知県 今村美根子  
兵庫県 山元三恵子  
長野県 小池孝一  
福井県 みつ木も花  
青森県 井上健蔵  
青森県 小山田英子  
愛媛県 吉原美佐

あの日見た父はかすれたバーコード  
影法師畳めばほんの一握り  
並んだ背の同じ黒ではない喪服  
家系図に黒毛和牛とありました  
ハンカチに包んだ黒が滲み出す  
暗闇で松崎しげるに並ばれる  
梟の闇にふたご座流星群  
黒板をかつぎ退職いたします  
墮天使、チャリで向かつてるついで  
ともすれば舌から黒くなりますよ  
許します潜水艦になりなさい  
日蝕のゆらぎの闇になでられる  
ほんのりと黒みを帯びて 風土性  
春の野の黒い帽子のひとなる  
へいせいがいざばられて金庫にしまわれて  
蟻追つて逆光の子は遠くなる  
八咫鳥マークシートな歩き方  
おもしろい黒になるまでかき混ぜる

大阪府 浅井ゆず  
大阪府 里山はるえ  
兵庫県 坪井篤子  
鳥取県 斉尾くにこ  
京都府 西田雅子  
愛知県 林 泰行  
岩手県 徳田ひろ子  
静岡県 句ノ一  
兵庫県 宮沢 青  
神奈川県 岡田弘子  
青森県 まみどり  
大阪府 小川佳恵  
北海道 木暮健一  
滋賀県 重森恒雄  
愛媛県 中西 亜  
愛知県 青砥和子  
愛知県 中川喜代子  
秋田県 佐々木智恵子

会釈するブラックアウトしたままで  
玄関に揃えてあげる今日の黒  
「ん」の続きあるので点をうたないで  
ミルク飲む 少しグレーになって寝る  
黒のこと抱きしめてみてしたたるから  
あやしくやさしいコウモリ傘になる  
淋しくて笑う 前歯に海苔付けて  
Tシャツ黒だとなんか落ち着くわ  
刑に処す全部32分音符

佐賀県 真島久美子  
徳島県 徳長 怜  
青森県 中村誠子  
青森県 吉田吹喜  
三重県 山口亜都子  
京都府 谷口 文  
石川県 松谷早苗  
滋賀県 立岡詩織  
山梨県 加藤当白

【秀逸】  
黒でいるための水深五メートル  
叱られて小さな黒い点になる  
天啓と水羊羹の舌ざわり  
魂はどこだとQRコードかざす  
コーヒーはブラック的な漢和辞典

鳥取県 平尾正人  
長野県 興津幸代  
秋田県 赤石ゆう  
京都府 河村啓子  
東京都 飯島章友  
北海道 澤野優美子

◆選評

今年の題は「黒」だった。黒と言えば、黒星黒魔術、黒歴史などなど。マイナスイメージが漏れなくついてくる。なので、比喩として使う場合、そういった通念とは違うことを書かねばならない。だって川柳なんだから。ここは逆にプラスのイメージを纏わせてみようか、とがんばってしまっ。いや、だけれどそれ、違うから。と、気弱な私はつぶやく。だって、マイナスをプラスに転換することは同じ「ものさし」を使っているってことに他ならない。だいじなのはその「ものさし」を手放す

ことじゃないかと、心のなかで思うのだ。

秀逸3 天啓と水羊羹の舌ざわり  
秀逸4 魂はどこだとQRコードかざす  
秀逸5 コーヒーはブラック的な漢和辞典

水羊羹のつるりんとした舌触りがめつぽう好きで、口に入れたらすくには嘸まず、まずは舌で嘗め回す性癖のあるわたしは「天啓」にひっくり返りそうになるほど感動した。取り合わせがぼつぐん。QRコードの句には、いわゆる「魂」なるものへの疑義が、漢和辞典の句の形容詞のような

「コーヒーはブラック」に新鮮な可能性を感じた。

特選 黒鍵のすきまに鳥がいた昨日

一目ぼれした一句を特選に選ばせていただいた。  
黒鍵を叩くと小さな鳥が音となって飛び立つ。そんな映像があたりに浮かんた。黒鍵は#と♭だ。半音低く、あるいは半音高く飛ぶ鳥が昨日はたしかにいたのだ。澄んだ空気のような、深く吸い込みたくなる作品だった。





樋口由紀子選  
ひぐちゆきこ／兵庫県・「晴」編集発行人

【佳作】  
黒星3つ残り12はややややや  
正露丸の黒とカラスの黒の差  
ガラガラポン落ちてきたのはルドンの眼  
一億二千万年過ぎてシダの黒光る  
旧姓と向き合うブラックコーヒー  
ひよいと手を伸ばすと戦争につきあたる  
黒い向日葵の子隠していませんか  
札服に殺虫剤が吹き溜まる  
別室の黒羊羹はどうなるの  
八咫鳥マークシートな歩き方  
ゴドー待つ 取つてみようか泣き黒子  
黒猫の尻尾ひよるひよる催眠術  
ウルトラマン諦め黒蜥蜴になった  
アクリルが発情したらしい 黒い  
ガラケーと言うからスマホは黒である  
あっちうちダルメシアン of 黒いここ  
生意気なミック・ジャガーのヘアヌード

愛知県 伊賀武久  
兵庫県 河内谷恵  
岡山県 小林茂子  
大阪府 井上文字  
広島県 笹重耕三  
青森県 高瀬霜石  
高知県 萩原良子  
東京都 伊藤三十六  
愛媛県 吉松澄子  
愛知県 中川喜代子  
静岡県 米山明日歌  
長野県 樹菊らき  
新潟県 星井五郎  
青森県 小野五郎  
滋賀県 村井隆行  
青森県 笹田かなえ  
青森県 須藤しんすけ

ともすれば舌から黒くなりますよ  
天啓と水羊羹の舌ざわり  
どよめきの漆黒になるまで 湾に  
刑に処す全部32分音符  
黒板は緑になった 痒くなる  
ブラックペッパー何者だったのか  
想像をふくらませよと黒が言う  
叩いても叩いてもファソラのシャープ  
黒豆になってかすれて行きまして  
八月のぬり絵に黒をよく使う  
月光に影 ん 黒子ではないか  
ファブリーズするドラキュラの黒マント  
おひかえなすって右太ももの黒揚羽  
思い出はイカスミだつて恥ずかしい  
喪服着て全部なかったことにする  
#2018 ■■■■■■■■■■■■■■□  
もうちょっと黒になったら入れたげる  
日常をうまい具合になぞる黒

神奈川県 岡田弘子  
秋田県 赤石ゆう  
宮城県 勝又明城  
山梨県 加藤当白  
福井県 酒井眺美  
大阪府 谷口義  
石川県 宮田喜美子  
愛媛県 郷田みや  
大阪府 谷口義  
新潟県 塩田悦子  
石川県 岡本 聡  
愛知県 今村美根子  
島根県 石橋芳山  
愛知県 明名 蝶  
愛媛県 吉原 美佐  
兵庫県 村井広子  
秋田県 佐々木智恵子

コーヒーはブラックのな漢和辞典  
許します潜水艦になりなさい  
由緒正しい黒で鶴など棲まわせる  
黒板をかつぎ退職いたします  
火縄銃に込める丹波の黒豆  
つれづれなるままに黒ずみましようよ  
そのままのまま 進行形の黒  
泣きじゃくろうチクろうタクろう中目黒  
春の野の黒い帽子のひとつになる

東京都 飯島章友  
青森県 まみどり  
奈良県 太田のりこ  
静岡県 匂 ノ 一  
岡山県 木下草風  
東京都 伊藤こうか  
愛媛県 能田勝利  
東京都 飯島章友  
滋賀県 重森恒雄

【秀逸】  
漆黒を宇宙くじらに隠そうか  
梟の都合で闇が白くなる  
おもしろい黒になるまでかき混ぜる  
黒文字で五大老に切り分ける

【特選】  
イマジンを聞きながら黒になる切手

兵庫県 妹尾 凜  
青森県 三浦 蒼鬼  
京都府 内田真理子  
秋田県 佐々木智恵子  
愛知県 中川喜代子

高知県 大野美恵

◆選評◆

イマジンを聞きながら黒になる切手

「イマジン」とは「想像する」「思い浮かべる」「心に描く」を意味する。ジョン・レノンの楽曲で有名で英語はわからなくても少し口ずさめる。平和と人類愛の歌で、「黒になる」でちょっと理が勝っているかなと思つたが、「切手」である。誰かに伝えようとしているものがある。「イマジン」から「切手」に流れがあり、関係性の付け方が独自だと思つた。

黒文字で五大老に切り分ける

「五大老」とは豊臣秀吉が五奉行の上に置いた政権の最高機関。その最高権力者たちに切り分けるといふ。それも「黒文字」である。クスノキ科の落葉

低木ではなく、それで作られた茶菓子用の「つまようじ」のことだろう。五老を羊羹と同じ扱いのよう形無しである。諧謔がある。

おもしろい黒になるまでかき混ぜる  
「おもしろいこと」が「黒になる」とはどういうものだろうか。まだ「白」や「赤」ならわかりそうな気がするが、「黒」である。意地悪いことも考えたが、それはないと思つて、かき混ぜる行為をユーモアに捉えた。

おもしろい句の「おもしろいしゃんくるよ」  
呪文みたいな一句である。無理に読み解いて、「外は真っ暗でもグーグルで正しく整理されるよ」かなのかと思つたが、しつくりはこない。意味はどう

でもいいのだろうと思うことにした。韻律のマジックに惹かれた。

梟の都合で闇が白くなる  
時事川柳として読んだ。言われてみれば、彼人は「梟」に似ている。「政策」でも「思想」でもなく、単に個人的な「都合」で、「闇」だつて「白」にしてしまふ。

漆黒を宇宙くじらに隠そうか  
「宇宙くじら」を調べたがいまいちよくわからなかった。でも、この言葉で一句を作つたことに感心した。「漆黒」は「暗黒」や「暗闇」ではなく、光沢のある、つやつやしている良い方の黒だと思つて、その発想に驚いた。



ひろせちえみ/宮城県・「杜人」所属  
広瀬ちえみ選

【佳作】

わたしだとわかる黒子が一つある  
黒鉛をひとつもらつて別れたが  
前頭葉から黒百合咲いたつて  
ブラックペッパー何者だったのか  
きつぱりと言おう わたしは黒胡麻だ  
黒髪を失つてから放し飼い  
ミルク飲む 少しグレーになつて寝る  
思い出はイカスミだつて恥ずかしい  
コーヒーはブラック的な漢和辞典  
会釈するブラックアウトしたままで  
腕まくりしている黒に賭けている  
帯は黒 立ちどまつてはいられない  
敵ながらいい味を出す黒砂糖  
ロケットと黒い接吻して暮らす  
おもしろい黒になるまでかき混ぜる  
許します潜水艦になりなさい  
ともすれば舌から黒くなりますよ

- |      |        |
|------|--------|
| 滋賀県  | 安井茂樹   |
| 宮城県  | 浮 千草   |
| 愛媛県  | 大内せつ子  |
| 大阪府  | 谷口 義   |
| 京都府  | 谷口 文   |
| 大阪府  | 能登和子   |
| 青森県  | 吉田吹喜   |
| 愛知県  | 明名 蝶   |
| 東京都  | 飯島章友   |
| 佐賀県  | 真島久美子  |
| 長野県  | 小池孝一   |
| 兵庫県  | 田村ひろ子  |
| 愛媛県  | 大葉美千代  |
| 青森県  | 井上健蔵   |
| 秋田県  | 佐々木智恵子 |
| 青森県  | まみどり   |
| 神奈川県 | 岡田弘子   |

黒よりも淋しい夜のマンドリン  
こうみえて黒はけつこうおひとよし  
黒紋付の案山子一休用意する  
やわらかい洞窟に入つてくる岬  
引き金はたしかに黒いチューリップ  
走つたら追い越せたかも知れぬ黒  
刑に処す全部32分音符  
切札の泣き黒子なんぞおまへんね  
もうちよつと黒になつたら入れたげる  
泣きじやくろうチクろうタクろう中目黒  
大人でも子供でもなく黒さとう  
黙り込むみんな黒には恩があり  
ゴチックが急に襲つてくるのです  
火縄銃に込める丹波の黒豆  
おんもまつくらぐーぐるしゃんくるよ  
茄子を焼く原子炉どうなつてるのかな  
黒鍵はもうたそがれてゆく兆し  
ガラガラポン落ちてきたのはルドンの眼

- |      |       |
|------|-------|
| 和歌山県 | 木本朱夏  |
| 高知県  | 萩原良子  |
| 兵庫県  | 杉浦まりこ |
| 青森県  | 守田啓子  |
| 愛媛県  | 吉松澄子  |
| 愛知県  | 前田ゆうこ |
| 山梨県  | 加藤当白  |
| 滋賀県  | 村井隆行  |
| 兵庫県  | 村井広子  |
| 東京都  | 飯島章友  |
| 青森県  | 笹田かなえ |
| 大阪府  | 小原由佳  |
| 愛知県  | 安藤なみ  |
| 岡山県  | 木下草風  |
| 京都府  | 内田真理子 |
| 青森県  | 斎藤早苗  |
| 大阪府  | 雨森茂喜  |
| 岡山県  | 小林茂子  |

黒鍵のすぎまに鳥がいた昨日

黒でいるための水深五メートル  
玄関に揃えてあげる今日の黒  
黒文字で五大老に切り分ける  
困つたものよ仄暗いのが出て行かぬ  
墮天使、チャリで向かつてるつていま  
こすつたらアカン黒白つけるまで  
墨を磨る 絹を一枚ずつ脱がせ  
天啓と水羊羹の舌ざわり

- |     |       |
|-----|-------|
| 北海道 | 澤野優美子 |
| 鳥取県 | 平尾正人  |
| 徳島県 | 徳 長 怜 |
| 愛知県 | 中川喜代子 |
| 愛媛県 | 能田勝利  |
| 兵庫県 | 宮沢 青  |
| 岡山県 | 木下草風  |
| 青森県 | 千葉風樹  |
| 秋田県 | 赤石ゆう  |

【秀逸】

つれづれなるままに黒ずみましようよ  
何だろう黒いおつりを貰つたよ  
お父ちゃん濡れたら泥に戻るで  
暗闇で松崎しげるに並ばれる  
黒のこと抱きしめてみてしたたるから

【特選】  
別室の黒羊羹はどうなるの

- |     |       |
|-----|-------|
| 東京都 | 伊藤こうか |
| 福井県 | 天谷由紀子 |
| 滋賀県 | 北村幸子  |
| 愛知県 | 林 泰行  |
| 三重県 | 山口亜都子 |
| 愛媛県 | 吉松澄子  |

◆選評

集句には喪服をはじめ、葬や死のイメージで作られた作品が多かったように思う。「黒」にはすでに意味が貼りついており、それをどう崩して作品化するか、難しさがあつたのではないだろうか。破天荒な黒に会いたかつたが、私が選句した作品も黒の既成概念からあまりはみ出してない気がする。特選にはずいぶん悩んだ。

黒のこと抱きしめてみてしたたるから  
別室の黒羊羹はどうなるの

この二つに最後まで悩んだ。  
「黒のこと」の「黒」は何だろう。まさか猫ではつまらないし、いやそれでもいいのだが、ぎゅつとしたら黒い雫が滴るような黒、何ともいいような深い黒なのだろう。  
妖艶さがあり魅力的な作品だったが、「したたるから」に最近（最近でなければ選んだかもしれない）、似たような句をみたような既視感がありどうしてもとれなかつた。

「黒羊羹」はただの羊羹でありながら、自在な読みができた。羊羹であつて羊羹でない読みもできる。大らかさと

ぼけた感があり、読者を自由にしてくれる。通りがかりにチラッと見えた、旨そうな羊羹は決して自分のところには来ないと分かっているのだが、気になつて仕方がない。

まるで処刑されるように切り分けられ、いったい誰が羊羹のすべてを処理するのか。ただの羊羹が「別室」という言葉と出会つたことで、ミステリーになつた。別室ではいつも事件が起きていた。そして黒羊羹の必然性を感じた。抹茶羊羹や栗羊羹では話にならない。やはり「黒」には生まれながらの気品とミステリアスなイメージがあるのだ。



小林康浩 選  
こばやしやすひろ／大阪府・第22回杉野十佐一賞受賞

【佳作】

愛憎のすべてをチャラにして喪服  
黒星3つ残り12はややややや  
支配者はハシブトさんとハシボソさん  
ときどきは白に相談してる黒  
嫁ぐ子へ兵糧丸の作り方  
入り口に美輪明宏の黒蜥蜴  
柔らかな黒はまどろむトルメキア  
真夜中のシンガミーシン亡母の音  
輪郭が薄いよ黒を飲みなさい  
モノクロのひまわり友達幻想  
墨吐いて生き延びるイカ介護一  
黒鉛をひとつもらつて別れたが  
何だろう黒いおつりを貰ったよ  
刑に処す全部32分音符  
会長の後ろに黒い哺乳瓶  
黒猫を抱いて彦乃になる今宵  
黒で書く本音と黒で消す本音

青森県 吉田吹喜  
愛知県 伊賀武久  
青森県 濱山哲也  
京都府 西田雅子  
埼玉県 野邊富優葉  
静岡県 米山明日歌  
愛知県 猫田千恵子  
大阪府 能登和子  
青森県 佐藤雅秀  
愛媛県 高橋こう子  
愛媛県 重岡 薫  
宮城県 浮 千草  
福井県 天谷由紀子  
山梨県 加藤当白  
愛媛県 土居新山  
石川県 石倉多美子  
佐賀県 真島久美子

泣き黒子お天道様にあるらしい  
墮天使、チャリで向かつてるつていま  
おあつらえそこに包丁ありました  
梟の都合で闇が白くなる  
思い出はイカシミだつて恥ずかしい  
泣きそうを閉じ込めているジェットピアス  
ガラガラポン落ちてきたのはルドンの眼  
こうみえて黒はけつこうおひとよし  
いただいた朝にもちゃんという鴉  
アンタはアンタやと陀羅尼助が黒い  
日焼けした頬これからも信じるよ  
あつちつちダルメシアの黒いとこ  
黒いです本能消した充電器  
金髪でうたつてならぬヨイトマケの唄  
旧姓と向き合うブラックコーヒー  
時系列を縛るイカシミのパスタ  
梟の闇にふたご座流星群  
無差別となる群衆のシルエツト

高知県 森乃 鈴  
兵庫県 宮沢 青  
青森県 高橋せい子  
青森県 三浦蒼鬼  
愛知県 明名 蝶  
京都府 竹内知子  
岡山県 小林茂子  
高知県 萩原良子  
青森県 岩崎眞里子  
滋賀県 峯裕見子  
京都府 和田洋子  
青森県 笹田かなえ  
東京都 星出冬馬  
北海道 木暮健一  
広島県 笹重耕三  
京都府 森田律子  
岩手県 徳田ひろ子  
山梨県 加藤当白

コーヒーはブラック的な漢和辞典  
はつこいの学生服にあつホテル  
掠れ筆森はますます深くなる  
別室の黒羊羹はどうなるの  
解答をみんな揃えたブラックホール  
八咫鳥マークシートな歩き方  
奥深くシャットダウンをまさぐりぬ  
影法師畳めぼんの一握り  
困つたものよ仄暗いのが出て行かぬ

東京都 飯島章友  
福岡県 柴田美都  
静岡県 渡辺遊石  
愛媛県 吉松澄子  
大阪府 寺川弘一  
愛知県 中川喜代子  
大阪府 竹井紫乙  
大阪府 里山はるえ  
愛媛県 能田勝利

【秀逸】

黙り込むみんな黒には恩があり  
腹黒い二人で見るショーケース  
公文書がブルカを着けてやってくる  
エンドロールでは黒の修理に追われ  
ニンゲンを一度やったら解るだろ

大阪府 小原由佳  
大阪府 小原由佳  
青森県 滋野さち  
東京都 柳本々々  
秋田県 田久保亜蘭  
静岡県 句 ノ 一

【特選】

黒板をかつぎ退職いたします

◆選評

秀逸5 黙り込むみんな黒には恩があり

「黒」に恩の無い人なんていないだろう。そう思わせる説得力がこの句にはある。読み手はそれぞれの「黒」を想起しては首肯する。

秀逸4 腹黒い二人で見るショーケース

「越後屋、お主も悪よのう」「お代官様ほどでは」の現代版を見るようで、「面白さが込み上げてきた。上質なユーモア句だと思ふ。」

秀逸3 公文書がブルカを着けてやってくる

殆どが黒塗りの公文書に、どこか慣れ  
てしまった自分が怖い。ブルカは神聖で  
侵し難いものだが、この句での用い方は  
絶妙だと思ふ。

秀逸2 エンドロールでは黒の修理に追われ

黒が壊れるまでを描いた本編。それを  
修理する様子をエンドロールの背景で見  
せるとは、なんて粋な構成の映画だろう。  
この着眼に惹かれた。

秀逸1 ニンゲンを一度やったら解るだろ

兼題「黒」との関連には正直いまも迷っ  
ているが、どうしても私の心を掴んで離

さないこの句。まあ、ニンゲンほど「黒  
い」生き物はいないと考えれば、兼題の  
問題も雲散霧消するだろう。

特選 黒板をかつぎ退職いたします

学校の先生の、愚直な生き様が活写さ  
れている。黒板と共に生き、黒板と共に  
教室を去るその姿を「黒板をかつぎ」と  
はあつぱれだ。視覚的、映像的という次  
元を超え、とことん戯画化したところが  
いい。そしてどこかじんとさせられる。





むさし／青森県・おかじょうき川柳社代表

【佳作】

ゾツタウンのゾツは妖しい黒子だ  
旧姓と向き合うブラックコーヒー  
ゆらゆらとひと息ついて黒になる  
しらす干し億の目玉に億の海  
蛇口から黒い噂さがぼとりぼとり  
黒を拾ってからのでこぼこ道  
青空を飛びつづけてもまだカラス  
だんごむしだったアイドリンドだった  
逃げ込んだ夜の扉が開く音  
クロネコの尻尾を踏んで待たせてる  
蜥蜴にも揚羽蝶にもなる喪服  
父さんのピースのにおい黒電話  
黒々と塗り潰してもまだ私  
ひよいと手を伸ばすと戦争につきあたる  
帯は黒 立ちどまつてはいられない  
黒で書く本音と黒で消す本音  
前頭葉から黒百合咲いたって

愛知県 明名 蝶  
広島県 笹重耕三  
京都府 佐藤暁音  
宮城県 渡辺忠一  
青森県 稲見則彦  
福井県 みつ木もも花  
三重県 小川はつこ  
熊本県 いわさき楊子  
青森県 綿谷夕雨子  
千葉県 老沼正一  
静岡県 渡辺遊石  
愛知県 今村美根子  
青森県 ひ と は  
青森県 高瀬霜石  
兵庫県 田村ひろ子  
佐賀県 真島久美子  
愛媛県 大内せつ子

ああ見えて肚黒だったんだ ススキ  
黥面文身鼻の穴から蕎麦の花  
黒塗りの文書に白い闇がある  
叱られて小さな黒い点になる  
引き波のにおいは底のない闇夜  
ニンゲンを一度やったら解るだろ  
黒鍵のすきまに鳥がいた昨日  
魂はどこだとQRコードかざす  
悲しみを笑いに変えてきたホクロ  
こうみえて黒はけっこうおひとよし  
許します潜水艦になりなさい  
喪服着て全部なかったことにする  
会釈するブラックアウトしたままで  
暗闇で握った黒が生温い  
まあいいか背黒鯛にされちゃった  
水辺へと手負いの黒をつれてゆく  
水たまり見つめ続けているカラス  
流木が横たわってる膝がしら

大阪府 上嶋幸雀  
青森県 小野五郎  
北海道 松木 秀  
長野県 興津幸代  
大阪府 宮井いずみ  
秋田県 田久保亜蘭  
北海道 澤野優美子  
京都府 河村啓子  
岩手県 鷹嘴 闔雄  
高知県 萩原良子  
青森県 まみどり  
愛媛県 吉原美佐  
佐賀県 真島久美子  
新潟県 星井五郎  
青森県 坂本清乃  
徳島県 徳長 怜  
奈良県 ひとり 静  
兵庫県 坪井篤子

会長の後ろに黒い哺乳瓶

おもしろい黒になるまでかき混ぜる  
ときどきは白に相談してる黒  
ほらここが黒くなってるから死ぬる  
走ったら追い越せたかも知れぬ黒  
もう過ぎたことです黒く塗りましよう  
火のにおいさせたまんまの黒でいる  
ともすれば舌から黒くなりまますよ  
別室の黒羊羹はどうなるの

愛媛県 土居新山  
秋田県 佐々木智恵子  
京都府 西田雅子  
大阪府 川田由紀子  
愛知県 前田ゆうこ  
長野県 興津幸代  
石川県 藤村容子  
神奈川県 岡田弘子  
愛媛県 吉松澄子

【秀逸】

黒い向日葵あの子隠していませんか  
梟の闇にふたご座流星群  
「ん」の続きあるので点をうたないで  
何だろう黒いおつりを貰ったよ  
火縄銃に込める丹波の黒豆

高知県 萩原良子  
岩手県 徳田ひろ子  
青森県 中村誠子  
福井県 天谷由紀子  
岡山県 木下草風  
大阪府 浅井ゆず

◆選評

第23回杉野十佐一賞にたくさんのご応募をいただきました。  
今回もハイレベルな作品が多く、主催者として深く感謝申し上げます。

\*  
十佐一賞の選をこれまで何度もやってきたが、今回はいつになく選考に長い時間を要した。

530句の応募作から100句まで絞るにはそれ程苦しまなかつたが、そこから序列をつけていくのに難渋した。  
読むたびによく見えて来る作品が多いのだ。  
選の結果を今見直しても、上位6句は

どれもみなおもしろい。

そんな中から急激に変貌を遂げている今の社会をクール過ぎるほどクールな目で見つめている作品を選とした。

特選 「あの日見た父はかすれたバーコード」

「バーコード」は太さの違う線を並べた符号で、機械で読み取ると国名、業種、商品名、価格などが判るようになっていて、主に在庫管理に使われる。

だから、普通は本や果物や野菜などの商品につけられているものだが、作者は「父」を見てバーコードを思った。「親父、バーコードだな。」「しかもか

すれてる」って、まさか頭髪の状況を言っている訳ではあるまい。  
作者の中では「父」という存在さえもりんごやキャベツと同列であって、単純に情報化されて管理され、処理されていくものであるということだろう。

そして、その存在が危うくなると「かすれ」る。  
「あの日見た」ということは、「父」はもうこの世にいないのかもしれない。  
人間の情報化と言えば、今では誰も話題にしなくなったマイナンバーを思い出す。人間もデータとして単純処理される恐ろしい世の中になった、とこの句は言っている。





おかじょうぎ川柳社：誌上句会

# 0番線

OKAJOKI ZERO LINE

課題と選者 (2句詠・共選)

題：『等』  
2/28 〆切

選者 米山明日歌 (野田順)  
Sin (青森県・おかじょうぎ川柳社)

投句方法

郵送・FAX・インターネットのいずれかからお選び下さい。  
 <投句先>  
 郵 送：〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛  
 FAX：017-723-5696  
 ネット：http://www.okajoki.com/toku/0line.html

投句料

1,000円 (発表誌星) ※おかじょうぎ川柳社会員は無料です。  
 ◆振込先：郵便振替 No.02280-8-43112 口座名 おかじょうぎ川柳社  
 ◆郵送先：〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

おかじょうぎ川柳社

第23回杉野十佐一賞 応募者(芳名) たくさんのご応募、ありがとうございました。

- 【北海道⑥】 岩間啓子、木暮健一、澤野優美子、浪越靖政、松木秀、嶺岸柳舟
- 【青森県(52)】 石澤はる子、井見則彦、尾上眞子、岩崎眞里子、小野五郎、小野英子、かほろ、きざき彼句吾、熊谷冬鼓、香田龍馬、齋藤早苗、坂本清乃、笹田かなえ、笹田隆志、佐藤雅秀、沢田百合子、滋野さち、須藤しのぶ、高瀬霜石、高橋せい子
- 【岩手県⑤】 加差野静浪、綿谷夕雨子、渡邊寂隆、吉田吹喜、守田啓子、村上あっこ、村井規子、三浦蒼鬼、まみどり、福多あられ、濱山哲也、野里風情、則田椿、石川真也、赤石ゆう、須川明城、月波与生、渡辺忠一、須川明城、浮又千草、勝千草、田中苑子、徳田ひろ子、宮城豊、土村誠子、中村雅子、夏草ふぶき、奈良一艘、成海賢治、鳴海賢治、野里風情、則田椿、濱山哲也、福多あられ、まきこ、三浦蒼鬼、南山藤花、村井規子、村上あっこ、守田啓子、吉田吹喜、渡邊寂隆、綿谷夕雨子、加差野静浪
- 【茨城県①】 岡本恵
- 【埼玉県②】 野邊富優葉、津沼正一、老沼暹
- 【千葉県②】 飯島章友、伊藤三六、伊藤こうか
- 【東京都⑩】 飯島章友、伊藤三六、伊藤こうか
- 【山梨県①】 加藤当白
- 【長野県④】 興津幸代、小池孝一、樹山健三
- 【静岡県⑥】 丸山健三
- 【福井県④】 宮田喜美子、松谷早苗、藤村容子、表よう子、奥野とみ子、佐々木智恵子、田久保亜蘭、山形真也、伊東マコ
- 【茨城県①】 岡本恵
- 【埼玉県②】 野邊富優葉、津沼正一、老沼暹
- 【千葉県②】 飯島章友、伊藤三六、伊藤こうか
- 【東京都⑩】 飯島章友、伊藤三六、伊藤こうか
- 【山梨県①】 加藤当白
- 【長野県④】 興津幸代、小池孝一、樹山健三
- 【静岡県⑥】 丸山健三
- 【新潟県⑤】 新井悦子、塩田悦子、谷沢けい子、夏井せいじ、星井五郎、石川真也、石倉多美子、岡本聡、奥野とみ子、藤村容子、表よう子、松谷早苗、宮田喜美子、福井美子、天谷由紀子、酒井曉美、みづもも花
- 【山梨県①】 加藤当白
- 【長野県④】 興津幸代、小池孝一、樹山健三
- 【静岡県⑥】 丸山健三
- 【愛知県⑩】 渡辺遊石、水品団石、中野由利、佐野ノリ、中島かよ、星出冬馬、柳本々々、山田こいし、神奈川弘子、岡田弘三、加藤ゆみ子、芝岡右衛門、新井悦子、塩田悦子、谷沢けい子、夏井せいじ、星井五郎、石川真也、石倉多美子、岡本聡、奥野とみ子、藤村容子、表よう子、松谷早苗、宮田喜美子、福井美子、天谷由紀子、酒井曉美、みづもも花
- 【滋賀県⑯】 大谷のり子、小川柳子、山口亜都子、山口亜都子、大谷のり子、片山美津子
- 【大阪府⑯】 浅井ゆづり、井森文喜、上嶋幸雀、オカダキキ、小原由佳、笠嶋恵美子
- 【兵庫県⑯】 河内谷恵、小林みちよ、杉浦まりこ、妹尾凛、坪井ひろ子、西田雅子、谷口文子、佐藤利音、木戸照枝、北原啓子、河村啓子、蟹川和枝、内田真理子、岩根彰子、安井茂樹、村井隆行、村井隆行、安井茂樹、村井隆行、安井茂樹、村井隆行
- 【和歌山県③】 中村せつこ、ひとり静
- 【鳥取県②】 三宅保喜
- 【高知県②】 平尾くにこ
- 【岡山県⑦】 石橋芳山
- 【広島県①】 藤井智史
- 【徳島県①】 徳長 伶
- 【香川県①】 嶋村 幸
- 【愛媛県⑯】 大西せつ子、大西美千代、越智トシ子、鎌倉俊一、重岡みや、仙波草苑、高橋こう子、田中新一、土居新山、中西 亜
- 【高知県②】 吉松澄子
- 【高知県⑤】 大野美恵、立花善江、小野美恵、萩原末美、萩乃 鈴
- 【福岡県④】 柴田美都、城後朱美、もりともみち
- 【佐賀県①】 真島久美子
- 【熊本県②】 いわさき楊子
- 【鹿児島県①】 阪本ちえこ
- 【沖縄県②】 渡嘉敷唯正、森山文切
- 【和歌山県③】 中村せつこ、ひとり静
- 【鳥取県②】 三宅保喜
- 【高知県②】 平尾くにこ
- 【岡山県⑦】 石橋芳山
- 【広島県①】 藤井智史
- 【徳島県①】 徳長 伶
- 【香川県①】 嶋村 幸
- 【愛媛県⑯】 大西せつ子、大西美千代、越智トシ子、鎌倉俊一、重岡みや、仙波草苑、高橋こう子、田中新一、土居新山、中西 亜
- 【高知県②】 吉松澄子
- 【高知県⑤】 大野美恵、立花善江、小野美恵、萩原末美、萩乃 鈴
- 【福岡県④】 柴田美都、城後朱美、もりともみち
- 【佐賀県①】 真島久美子
- 【熊本県②】 いわさき楊子
- 【鹿児島県①】 阪本ちえこ
- 【沖縄県②】 渡嘉敷唯正、森山文切
- 【和歌山県③】 中村せつこ、ひとり静
- 【鳥取県②】 三宅保喜
- 【高知県②】 平尾くにこ
- 【岡山県⑦】 石橋芳山
- 【広島県①】 藤井智史
- 【徳島県①】 徳長 伶
- 【香川県①】 嶋村 幸
- 【愛媛県⑯】 大西せつ子、大西美千代、越智トシ子、鎌倉俊一、重岡みや、仙波草苑、高橋こう子、田中新一、土居新山、中西 亜
- 【高知県②】 吉松澄子
- 【高知県⑤】 大野美恵、立花善江、小野美恵、萩原末美、萩乃 鈴
- 【福岡県④】 柴田美都、城後朱美、もりともみち
- 【佐賀県①】 真島久美子
- 【熊本県②】 いわさき楊子
- 【鹿児島県①】 阪本ちえこ
- 【沖縄県②】 渡嘉敷唯正、森山文切

# カンテラ

Season:3

むぎさし

おおしよき川柳社

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ平成最後の年が幕をあげました。

本年もおかじようき川柳社をよろしくお願ひします。

突然ですが、今号から、奈良一艘がとことん深読み「深鯉心理」が始まりましたので、こちらは何卒よろしくお願ひします。

それでは、カンテラに今年最初の明かりを灯しましう。

## A群

オムレッツに包みましたよ生き下手を

夏井せいじ

今日落ちた枯葉の数を知っている

高橋星湖

大丈夫この世あの世は地続きよ

ひとり静

そつまでして余白にしかかったのか

柳本々々

神様のバケツに水が一杯だ

松木 秀

笑わない男のポケットの匂い

月波与生

助詞ひとつ違っただけのパイプ椅子

熊谷冬鼓

なんのためのフェルメールブルーな嗚咽

守田啓子

守田啓子さん、光の魔術師と言われるフェルメールが好きなようですね。「牛乳を注ぐ女」や「真珠の耳飾の少女」が有名。フェルメールブルーは「真珠の耳飾の少女」に描かれた少女のターバンの色。別名ラピスラズリという天然の青金石からつくられたウルトラマリンブルー。「嗚咽」は、「むせび泣くこと。すすり泣くこと。」(広辞苑第七版)。「フェルメールブルーな嗚咽」に一本とられました。

キジトラの猫が振り向く西の風

ひらく

耳を立て爪を噛んでる父帰る

笹田隆志

ありがとうって口がへの字に曲がってる

夏草ぶぶき

うかつにも引いてしまった当り籤

葉 閑女

こみ上げる炭酸水の笑い声

吉田吹喜

乱れなく洒れ野に向かう運命線

きさらぎ彼吾

きさらぎ彼吾さん、一般的には「枯れ野」ですが、あえて「洒れ野」を使っているんですね。「枯れる」は「草木が生気を失う」「水分がなくなる」こと。「洒れる」は「水が尽きる」「能力などが尽きる」ことですから、「洒れ野」はひとの老化の先にあるところって辺りでしょうか。「乱れなく洒れ野」へ向かっているって、運命は残酷でもある…。

## B群

首輪の無い犬が自ら出頭する

向山タエ子

## C群

石段の3百段目キリリとつねる

岩根彰子

午後遅くやイヌビエになるでしょう

小野五郎

坊さんの三男坊に臍ピアス

安藤なみ

ユトリ口の角をまがれば冬の舌

米山明日歌

誰かがいて誰あれもない非常口

奈良一艘

岩根彰子さん、すごい「石段」を登っていますね。で、私考えたんですが、この「石段」ってもしかしたら1年365日のことで、元日から300日目、つまり大晦日まで後2ヶ月少々の10月27日を言っているんじゃないかって…。その辺で「キリリとつね」って軌道を修正し新しい年を迎えるってことじゃないかな…。金比羅さんは785段、人生百まで生きれば全部で3万6千5百段。長いようで短く、短いようで長い。

小野五郎さん、「イヌビエ」なんて底冷えしそうな草

の名前をよく知っていますね。「イヌビエ」は水田や放棄水田、路傍、荒地などに生育する一年草。イネに擬態し、稲作のサイクルに見事に適応して農家に嫌われる存在。「午後遅く」と言えば大体何時頃でしょうか。晩酌を始める頃でしょうか。その頃だと私も「ややイヌビエになるでしょう」(汗)

安藤なみさん、「坊さんの三男坊に臍ピアス」があるのを見たんですか？坊さんって修行を積んだりして厳格な印象がありますが、三男坊ともなればブレが生ずるんじゃないかな。「臍ピアス」が真面目な顔で禅問答をしてたりしてね…(汗)

米山明日歌さん、ユトリロが好きですか。モリス・ユトリロ (Maurice Utrillo, 1883年12月26日 - 1955年11月5日) は、近代フランスの画家。母親は画家シュザンヌ・ヴァラドン。彼は私生児だった。そして、アルコー

ル依存症でもあった。教会などを描いた風景画が多いですね。絵の中のあの「角」を曲がれば「冬の舌」があるのですか…。気をつけないと…。つかまれば、あつという間に飲み込まれてしまうかも…。

奈良一艘さん、「誰かがいるのに誰もいない」ってまるで禅問答ですね。禅問答は、広辞苑によると「禅家で、修行者が疑問を問い、師家(しけ)がこれに答えるもの。」ですが、「ちぐはぐで分かりにくい問答。」のことも言うて書いてあります。関係ないかもしれないけど、去年、澤木興道著「禅談」(ちくま文庫)という本を何気なく買ったんですが、何だか難しそうなので今のところ「積ん読」にしてあります。一艘さんのこの句も難しい。と言うか、実は私には分からない。世の中辻褄の合わないことがあちこちにあるしねえ…。

おかしょうき川柳社会員雑詠集

# 無人駅

★無人駅12月間賞

老人が次々消えるのぞき穴

月波与生



### 向山夕エ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

辛口のサクラにお説教される  
死に水はラーメンの汁にしてくれ  
苦勞します公衆電話とみじん切り  
首輪の無い犬が自ら出頭する  
テレビ観て 悪化するウツ ジンマシン

先月号のお気に入り

### 村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

結び目をほどこいてみたら青い空  
暗雲を鎌で刈りたい視界不良  
寂しくて乗ってしまった口車  
擦り切れた雑巾けどまだ生きてる  
記憶中枢濃霧警報発令中

先月号のお気に入り  
うん、なかなかだ悪くない悪くない  
そう思えることがなかなかありません。 吉田吹喜

### 葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

善人の仮面はずして初暦  
太陽になろう圧力などやめて  
編集と執筆わたしも二刀流  
無駄骨になった昨日が笑ってる  
うかつにも引いてしまった当り籤

先月号のお気に入り

### 吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

頁繰るときどき紋白蝶が飛ぶ  
マーチングやがて満月一輪車  
つくづくに亡夫恋しさの実むらさき  
初雪の回想どれも手に余り  
やがてやがて私は雪を嫌うだろう

先月号のお気に入り  
くっふくもくっふくもある祈る時間 月波与生  
生きるって そんなこと

### 守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

あなたの中でりんごが腐る私が腐る  
折って折って流れる川になる流れる  
イカノミミミばほらばほらと日没に  
次々とつばきのつぼみツーツーツー  
なんのためのフェルメールブルーな嗚咽

先月号のお気に入り  
それぞれの秋が濃すぎて離婚する  
すこし離れた方がいいことも・・・ 笹田隆志

### 柳本々々【やぎもとともと・東京都目黒区】

服を着るいつでもおもてでられるように  
宇宙人と意気投合「許可って青い色」  
おかあさんから生まれたかったマリオ  
そうまでして余白にしたかったのか  
ヌートリアになるまでなぜ黙ってた？

先月号のお気に入り

### 吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

こみ上げる炭酸水の笑い声  
ぼわぼわと響く音楽話し声  
それぞれの速度で交差する涙  
ああなたと憎つたらしい「個」「個」「個」  
方法論激しく違つて生きている

先月号のお気に入り  
人体の一部ご利用できません 小野五郎  
それって どこ？ 気になるわ

### 米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

ユトリ口の角をまがれば冬の舌  
幸せというには首がぐらついて  
またねって声を跨いで秋の蝶  
魔が差してナマコの夢の中にいる  
思い出がコンペイトウになつて冬

先月号のお気に入り  
善人の貌で徘徊しています 土田雅子  
徘徊をしている人を見たことはないのですが。善人の顔  
だから、なかなかみつからないのかも。



## 安藤なみ

【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

坊さんの三男坊に臍ピアス  
葬送の流れはやがて滝になる  
朱を重ね鬼になる日がやってくる  
発光の角度が違う宝もの  
お別れに紙風船を差しあげる

先月号の  
お気に入り

## 石橋芳山

【いしばしほうざん・島根県松江市】

金のいる話じゅげむじゅげむと揉めている  
日の丸の揺れて静電気の悪意  
チャイルドシート楕円に固定してポッポ  
シャングリラ着くまでお尻舐めている  
ほどけだすカラクリ年号がかわる

先月号の  
お気に入り

真実に調味料など不要です まみどり  
そうです、そうです。

## 入丸葭英

【いれまるよしひで・青森県八戸市】

「入丸」の賞味期限が切れました  
三成の頭脳を持つて嫌われる  
何もかも呑み込み僕は宇宙（そら）になる  
天運は私に味方しなかった  
額縁の隅に描かれている答え

先月号の  
お気に入り

息を吸って吸って吸って吸って破裂 安藤なみ  
インソフ童話の「牛になろうとした蛙」を連想。何事も程々  
が肝要。無理は禁物。

## 岩根彰子

【いわねあきこ・京都府京都市】

足首で逆さ紅葉をぶうらぶら  
削ったり盛り上げたりの環状線  
ヘアードイはしない選択加茂川デルタ  
石段の3百段目キリリとつねる  
肝班がうつすらバナナの人間臭

先月号の  
お気に入り

長崎は今日も雨です紅茶のむ 米山明日歌  
ぼあんぼあんという感じ

## 小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

アジサイに第二次性徴あらわれる  
近頃はタンポポ生活しています  
裾模様キソウテンガイにして下さい  
タケノコのような液体飲まされる  
午後遅くややイヌビエになるでしょう

先月号の  
お気に入り

## きさらぎ彼句吾

【きさらぎあきあ・青森県弘前市】

わらわらと枯れ葉ダラリと犬の舌  
乱れなく洒れ野に向かう運命線  
介護の手だな啄木の霜柱  
△も〇も共鳴しあう通夜  
凧を背負って逢いに来るなんて

先月号の  
お気に入り

真実に調味料など不要です まみどり  
いますよねえ、味付けしたがるひと

## 熊谷冬鼓

【くまがいとこう・青森県青森市】

番号で呼ばれるまでは塩こうじ  
ご無沙汰に手作り味噌の付け合わせ  
正面の首は傾いだままである  
逸らされて特大だいこん持たされる  
助詞ひとつ違っただけのパイプ椅子

先月号の  
お気に入り

極上の宴 終バスにひとり 葉 閑女  
ほくそ笑んでる顔が窓に映ってますよ

## 笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

耳を立て爪を噛んでる父帰る  
蒼鬼がオオハクチョウを囲ってる  
セシウムを今夜のショーで爆破する  
骨髓を売って魯迅の春を買う  
鉄腕アトムを胸に隠してひとつ飛び

先月号の  
お気に入り

燃え尽きる覚悟あるなら脱ぎますよ まみどり  
僕はいつも真剣です でも、無理しないでください

## 城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

夫から必要とされても困る  
病む夫へ何を話せばいいのだから  
私より娘に話す夫である  
ありがたいと夫に言えぬ理由があり  
私から離婚しようとは言わぬ

先月号の  
お気に入り

先生をブラックリストに載せている 夏草ふぶき  
先生にじめられた過去があり、消えない。今も苦しんでいる。

## Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

「悲しい」なんて言葉で済ませるな  
今日も電波で流れる「犯罪予備軍行進曲」  
「幸福の意味」それもお金で買ったちゃおう  
君が必死に抱えてるものは「命」かい？  
いつだってサヨナラに嫌われている

先月号の  
お気に入り

切り飛ばされると爪はここにこしている 柳本々々  
デイズニー映画みたい(笑)

## 月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

雨やどり鯖と笑っていた水煮  
蓮根のもれなく天皇の欠伸  
尻軽な女の尻にびっしりとしめじ  
笑わない男のポケットの匂い  
剥製にするか別れるかで悩む

先月号の  
お気に入り

疑似餌です何度言ったらわかるのよ まきこ  
青春期、同じエロビデオばかり何度も借りたせつなさを  
思い出しました。

## 夏井せいじ【なつせいせいじ・新潟県新潟市】

追い風を上手に食べてみたくなる  
いい顔にまとめて棺に入れられる  
オムレツに包みましたよ生き下手を  
孕寿ですぞ昔むかしは捨てられた  
喜怒哀楽さてどの辺を語ろうか

先月号の  
お気に入り

## 高橋星湖【たかはしせいこ・青森県むつ市】

今日落ちた枯葉の数を知っている  
山茶花咲いた不倫の唄を聞き直す  
懐しい四角四面の葉包紙  
飛び込んだ芒の原でまだ迷う  
風の向う知りたがってる猫じやらし

先月号の  
お気に入り

## 田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

転売をする雪庇から雪庇まで  
象印魔法瓶から象が逃げ  
完全な落伍にしては真つ直ぐだ  
労働者向けの太陽貸し出し中  
大きくて小さくてもう堪らない

先月号の  
お気に入り

10円で届いた手紙目を覚ます 村上あつこ  
82円じゃダメなんですね。なんか特別な手紙なのかも。  
チョット覗かせてよお願いしまーす。

## 夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

みかん剥くシャンデリアから冬降りる  
ありがたいって口がへの字に曲がつてる  
髪を結うマージャン花札チンチロリン  
友達の友達だから落とし穴  
シンデレラ12時過ぎててもシンデレラ

先月号の  
お気に入り

美しい額縁として生きよ 線 吉田吹喜  
マテイスの曲線の美しさを思い出しました

## 奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

誰かがいて誰あれもない非常口  
鯖缶がシルバースhirtでする「レレレ」  
家族民族国家宗教結束バンド  
大つきなコドモ小ちやなオトナ烏瓜  
てのひらのクシヤクシヤな夕暮れ

先月号の  
お気に入り

人質解放てんびん座 52点 Sin  
賛否両論を天秤にかけて2点差とはじミョー(ぶつぶつ  
ぶ)

### 鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

年齢制限なし亀の足跡  
むずがゆいものは食べない母の遺言  
窓枠を越えた朝日を越えてきた  
一酸化炭素二酸化炭素ダメ  
最後までひつじ鳴こうとしなかった

先月号のお気に入り

極上の宴 終バスにひとり 葉関女  
五三、五三音は、けっこうこちよいリズムである。「じ  
いちゃんが見たんだ コスモスが咲いた 忠兵衛」

### 則田 椿【のりたつばき・青森県弘前市】

どの花も出てゆく舞台知っている  
これ以上ひき伸ばせないゴム鉄砲  
着ぐるみでないのにまたも起きられぬ  
アイライン哀しみだけが苦手です  
塩むすび程の恋文だったのね

先月号のお気に入り

### ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

わたしたち横にコロケケそれでいい  
そうよねと涙になつてゆくのです  
大丈夫この世あの世は地続きよ  
今はもう思い出だけになる景色  
吾亦紅覚悟ないから遠くから

先月号のお気に入り

三枚おろし笑い話をするように まみどり  
いつもアジ、イワシ、秋刀魚に申し訳ないと思っています

### ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

日差しが眩しいと笑う黒い猫  
牛の柄キヤットウオーク外は雨  
面白いとはおかしいとシャイな猫  
三毛猫の猫のトイレにカドがある  
キジトラの猫が振り向く西の風

先月号のお気に入り

### まぎやう【まぎやう・青森県青森市】

このままじゃシーラカンスになりそうよ  
いそいそと付度しちやつた路線バス  
真四角に遊ぶ たらればの世界  
ドレミファのあたりが危険区域です  
百パーセント達成芋が煮えました

先月号のお気に入り

肉親と他人 あんことクリーム 守田啓子  
うひゃうひゃとほほほほというしかないわ。

### 松本 秀【まつきしゅう・北海道登別市】

あべのハルカス略すれば安倍のカス  
ネトウヨの遺品 新潮『安倍一族』  
自動運転ならば車である意味は  
神様のバケツに水が一杯だ  
尖閣に普天間移転すればいい

先月号のお気に入り

これいいですこれいいですと激しく叫ぶ子供 柳本々々  
穂村弘、加藤治郎（歌人）の影響を受け過ぎの感もあるが、  
面白く句。

### まみどり【まみどり・青森県黒石市】

錠剤をひとつ増やしてどのあたり  
少しずつしぼみ始めた風船と  
いつの間にか同化していく冬景色  
こわいもの見たさでつづく細い道  
ふつと出て静かにとけていけるなら

先月号のお気に入り

### むさし【むさし・青森県蓬田村】

職務質問ですかイヤホンからフーガ  
ちらし寿司的ファンキー・ジャズの濡れ具合  
オプジーボとiPSのオペレッタ  
リュウグウから写楽へ冬のエタタキ  
組曲1番「積み木の汽車が飛ぶ」

# 川柳忘年会2018



今年は試験的にYoutubeでLive配信してみました！  
カメラを置いたままの垂れ流し映像ですけど、  
観たい人はアーカイブが残っているので、  
いつでもご覧ください！  
出来れば、今年の「川柳ステーション 2019」を  
ライブ配信出来ればと思っています！

12月1日(土) 午後1時～ ラ・プラス青い森

▼出席者(17名)

むさし・土田雅子・守田啓子・Sin・田久保亜蘭・まきこ・坂本清乃・葉閑女・  
吉田州花・北野岸柳・一帆・渡邊こあき・奈良一艘・小野五郎・笹田隆志・  
須藤しんのすけ・熊谷冬鼓

昨年の夏、柳友と北海道へ行ってきた。札幌から特急で一時間半、登別駅に到着。目的地は「伊達時代村」だ。直行のバスもあるのだが、駅前に待機していたタクシー運転手に所要時間と料金を尋ねて乗り込んだ。「人出は、どうですか?」「観光客は賑わっていますか?」と話しかけたが聞こえていないのか無言。声を大きくしても一度聞いてみると「見ての通りだ」「わからない」とぶつぎらばうな返事。観光地の運転手とは思えないほど横柄な態度。啞然とする私に、同乗していた仲間が首を振り目配せをする。こんなタクシーは真つ平ゴメンだ。料金を払いさつさと降りた。しばらく時代村で遊んだ後、またタクシーを呼んだ。もしやあの運転手だったらどうしよう、いやだなあーと恐る恐る乗り込むと、すかさず、「ニイハオー、ハロー、それともこんにちは?」と運転手。「えつ、あ、日本人です」「あーよかった、駅でいいの?」と、とても気さくに話しかけてくる。これで普通なのに。さらに運転手は話しを続ける。少しの乗車時間だったのに会話は弾んだ。するとあろうことか、私に独身かどうかと聞いてきた。「夫と愛人が困らない程度にいる」と、ばかげた話をしたら、別れて自分のところに来い

リレーエッセイ 途中下車 乗客93.まみどり

## 「旅の出会いはいは…」

と、いきなりのプロポーズ。即答はせずに、お返事は来年まで待つてほしいと答えたなら、降り際のひと言、「これで一年は楽しく仕事ができる」と言ってくれた。すべて、その場限りの冗談の会話であつても、なんともうれしい言葉。

少し遅い昼食をとろうと駅前を見渡すと、ラーメン二百五十円の看板が目についた。どうみても食堂らしからぬ店のたまたまだが、お腹はぺこぺこ。意を決して中に入ると天井から壁まで珊瑚や真珠がひしめき合っているではないか。ちらりと値札を見ると数十万円の品々。こんなお店にこんな高級品が…そして仙人のように風貌のある店主のラーメン。なんともミスマツチだが美味しかったのである。女性客は特別らしく明朗会計のうえにブレスレットまでいただいていたしまった。

たつた数時間の登別滞在で、私たち三人は貴重な体験をしたのであつた。ちなみに前者の運転手も後者の運転手も同じ会社であつた。前者は、口数が少ないとても真面目な人で、後者はすこぶる社交上手の人だったのかもしれないが…。

さて私は、再びの登別をどうしようかと密かに想いを巡らせている。



# 席題『相棒』

秋田県五城目町

田久保亜蘭選

## 【佳作】

男の惨めさのどこから話そうか

S i n

頼られて心にもない薔薇になる

吉田州花

仲間入りしたくて飛んでいく帽子

渡邊こあき

憎しみと同居生活ははじめます

S i n

相棒の財布に少しだけたよる

北野岸柳

相棒よ昼飯食って来たかいな

北野岸柳

朝丘雪路的死に方が理想

土田雅子

「相棒」と赤墨汁で書くのです

奈良一艘

一瞬の狂気するつと今日結婚

まきこ

相棒と認めたくない鼻の穴

一 帆

初めから負けだよ一目惚れなもの

葉 閑女

まつすぐな雪 相棒だと思つてた

守田啓子

靴音が違う男と渡る河

須藤しんのすけ

ぼたん雪無料通信分ですか

小野五郎

ドンキホーテの虹とロシナンテの尻尾

奈良一艘

## 【秀逸】

相棒は金魚ひつそり息を吐く

まきこ

語れない 根雪を知らぬでくの棒

吉田州花

相棒はいない 魚座は52点

S i n

## 【特選】

カラスかぁーつと泣いて二人を濡らす

奈良一艘

\* 優秀な生徒だったんだろうなあ。

# 席題『相棒』

青森県青森市

吉田州花選

## 【佳作】

相棒よ昼飯食って来たかいな

北野岸柳

相棒の前頭葉にまつしぐら

笹田隆志

カラスかぁーつと泣いて二人を濡らす

奈良一艘

相棒の財布に少しだけたよる

北野岸柳

相棒はいない 魚座は52点

S i n

一人ぼち僕は心を相棒に

北野岸柳

「相棒」なんて勝手にシンドバッドだよ

守田啓子

初めから負けだよ一目惚れなもの

葉 閑女

二人三脚なんて他人事柿花火

熊谷冬鼓

冬の雨相棒の振り妻の振り

守田啓子

悪人の顔で仇を待っている

須藤しんのすけ

逃げてでも逃げてでもついてくる太陽

田久保亜蘭

本日は相合傘は売り切れに

田久保亜蘭

ふんわりと撫でてたいて三十年

一 帆

相棒の引き立て役で今日も晴れ

葉 閑女

## 【秀逸】

まつすぐな雪 相棒だと思つてた

守田啓子

相棒は金魚ひつそり息を吐く

まきこ

百人といつても一人で見る銀河

熊谷冬鼓

## 【特選】

靴音が違う男と渡る河

須藤しんのすけ

\* 様々な先生がいるもんだね。

# 席題『ゲノム』

秋田県秋田市 一帆選

## 【佳作】

- DNA分子の闇に冬の稲妻 奈良一艘
- ビブラート効かせ遺伝子はしやぎ出す 土田雅子
- ゲノムつてなあに生産性つてなあに 守田啓子
- 放置自転車に群がるヒトゲノム 土田雅子
- ユーグレナ飲んで認知の穴を掘る 坂本清乃
- 病院の廊下似ている人に会う 渡邊こあき
- 大雪がゴーンの遺伝子組み換える 笹田隆志
- ポーと生きてゲノム編集されている 守田啓子
- 鮭遡上神の世界のことなんて 吉田州花

絶えてゆくゲノムどうぞ存分に 熊谷冬鼓

遺伝子の組みかえキャベツの山が残される 渡邊こあき

「もうすぐ」とゲノムに耳打ちして眠る S i n

細胞とハグして絞るマヨネーズ 奈良一艘

血糖値ああ母さんの爪の色 奈良一艘

借金はないけどシライシカヨコの呪縛 小野五郎

## 【秀逸】

長男に優柔不断というゲノム 吉田州花

あきらめて歩けばゲノムらしくなる 北野岸柳

ところてんずるり ヒトゲノムずるり まきこ

## 【特選】

「神様の御加護」絶賛発売中 須藤しんのすけ

# 席題『ゲノム』

青森県弘前市 奈良一艘選

## 【佳作】

- 長男に優柔不断というゲノム 吉田州花
- ゲノムとは何だとなりに聞いてみる 北野岸柳
- 花魁がひとり先祖にいららしい 吉田州花
- ボブデイルン聴いて細胞活性化 葉 閑女
- 組み換えて組み換えてミジンコになっちゃうぞ 熊谷冬鼓
- 放置自転車に群がるヒトゲノム 土田雅子
- あきらめて歩けばゲノムらしくなる 北野岸柳
- 汗をしばると北京原人の父 小野五郎
- 「もうすぐ」とゲノムに耳打ちして眠る S i n

ポーと生きてゲノム編集されている 守田啓子

へその緒がからむこの世を出てからも まきこ

病院の廊下似ている人に会う 渡邊こあき

遺伝子でタイムマシンをねじ曲げる 笹田隆志

天の川渡れば交差する尻尾 一帆

シャーロックが挑むオンナの染色体 まきこ

## 【秀逸】

一滴を摘まれて雄蕊黄昏れる 一帆

借金はないけどシライシカヨコの呪縛 小野五郎

いつせーので、フレディ・マーキュリー S i n

## 【特選】

ところてんずるり ヒトゲノムずるり まきこ



# 川柳ドラフト会議

さて、川柳忘年会2018のお遊び企画「川柳ドラフト会議」の結果です。

「川柳ドラフト会議」とは、年間成績の上位4人がまず上句だけを設定します。そしてその上句を託す人を入札指名します。指名が重複したら抽選で決定。抽選負けしたら再指名という形となります。

次に、その指名された人は上句を引き継ぎ、それに中句を足します。そして同じように下句を託せる人を、残りの人から入札指名して、

一句を仕上げるというゲームです。

これがなかなか技量が必要なゲームで、書き出しをふわっとさせるか、限定させるか、さらにその上句に合った作風の人を指名出来るかどうか、大事な着地を誰に任せるか、などなど、作る技量と他人の作風の理解度、そして指名運があるかどうか、総合力が試される年末にふさわしいゲームと言えます。

最後の互選投票では、3人で作ったはずなのに2票だった句も(笑)

1位 夕焼けの 背任罪を 干さなくちや  
(啓子) | 指名 ↓ (Sin) | 指名 ↓ (しんのすけ)

2位 泣くのはやめた どうせこの世は 夢芝居  
(むさし) | 指名 ↓ (雅子) | 指名 ↓ (閑女)

3位 朱の色を 大統領の フェイクニュース  
(一艘) | 指名 ↓ (亜蘭) | 指名 ↓ (冬鼓)

4位 金農の 吉田もどきが 遮光土偶に  
(五郎) | 指名 ↓ (華蔵) (隆志) | 指名 ↓ (州花)

2018年に行われた、おかしようき川柳社月例会で特選・天位に選ばれた作品の中から最優秀句を決める「句会王」。今年の句会No.1作品はこの作品でした！

## 2018 句会王

### あんばんの割れ目 人間の裂け目 守田啓子

【2018年句会での特選・天位句】

試される今日一日の光り方  
始まりは処女の眼をした海でした  
荒縄で縛ればスーザフォンの息  
椅子なのか人間なのか吠えてみる  
若者よ正しく不良しているか  
雑巾じゃぶじゃぶすぐに答を聞いたがる  
ハズキルーベはずす弥生の海洗う  
楽になれよと線香花火持たされる  
舌下錠この身に纏うものは無し  
地吹雪の向こうへ顔を置いてきた  
湖になるところに耳を置いておく  
トランプの耳がチクワになっている  
今朝はまだごはんを食べてないのです  
アンパンマンでいるのがきつと妻の義務  
カタログと違う家族がやって来る  
たかが雨ふつつふつと煮るりんご  
ピコピコと筋肉一人ぼっちです

深呼吸して爪痕を舐める  
泣いてるか泣いていないか嗅いでみる  
顔パスで入れる穴が五ヶ所ある  
五本目の水平線を眺める  
せせらぎのままですべてを受け入れる  
まだ生きてます質問を続けます  
シーソーに君が帰ってきた重さ  
そのみかん人間の列離れなさい  
完熟のみかん乳房になれそうな  
よろよろとシーラカンスになってゆく  
家一軒建てて動けない案山子  
古い写真に張り付いたのは「あのねのね」  
蝉時雨ふるよあの日がまた来るよ  
引き際は決めてあります塩むすび  
あくせくと日暮れ ぺらぺらと命  
五回目の脱皮だ蕎麦湯飲む姿勢  
八月をころがる食べかけのあんばん

引き分けにしましょうペンは置きましよう  
無記名で届くずしりと天地無用  
余命天命道端にある深い穴  
七十一歳でしたどつと驟雨  
鳥賊売りのあとから続く亜熱帯  
たつぷりと墨吐き終えて先生を揺らす  
先生をブラックリストに載せている  
団欒へ波紋を起こす男の名  
脱ぎ合って青い魚になってゆく  
肉親と他人 あんことクリーム  
立ち食いのそば屋に僕の椅子がある  
憎しみがまだ足りなくてアルデンテ  
モップですただ突っ立っているだけの  
年金で蝶々結びはできんやろ  
茹で卵の燻製ああ叩き合う

# 深艘心理

## 此岸SA列25番彼岸

守田啓子

(おかじょうき無人駅11月号より)

おかじょうき川柳社会員雑詠集の中にこの句があった。訴えている句の力強さに思わず立ち止まってしまった。

此岸しがんとは現世、人間の世界のこと、欲と煩惱にまみれた苦渋の世界。彼岸ひがんは欲と煩惱から解放された仏の世界。そして掲句はその異なる世界の真ん中にある河の位置を観覧席として示してはいるが、作者の眼が向いているのはあくまでも此岸。SA列(スタンダードあるいはスペシャルA列)という表記はないこともないが、この場合はA列だけで説明はつく。となれば掲句は「此岸S/A列25番/彼岸」というセンテンスで詠むべき句なのではないだろうか。

まだ煩惱の此岸から抜け切れないSさんは、「あの世」を背景に踏まえながらその対面にある「この世」

という舞台を合わせ鏡のように見つけている作者そのものなのだろう。A列25番は客席配置でいえば最前列右側の端っこ辺り：つまり、役者の台詞の唾が直接ふりかかるようなかぶりつきの席からは少し離れた、現世の煩惱を真剣に見つめてはいるものの、やや屈折して斜に構えている自身を表している。人生を冷静に観ようとしているのか、それとも納得したいのか。

作者の戸惑いと諦念が泡立つ世界を、場面の切り取りだけで表現した手法は、読み手の妄想を充分にかきたててくれる。

沈黙こそは雄弁：なのだ。

百人いれば百通りの価値観があるし読み方もある。これはその1/100の読み方にしか過ぎない。

## 十和田たてがみ川柳会11月句会

【時】平成30年11月17日(土)

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・久保あざみ・木村奈生美・斉藤蛙井・瀧尻善英・福田芳詔・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題 『つさやく』 高田 幸柳 選

【平抜き】

木枯らしに大丈夫だとささやかれ  
 点滴のささやく音に聴き入って  
 還曆を楽しむんだとささやかれ  
 新米のつやが囁く味・香り  
 財布から「今月赤字」とささやかれ  
 施錠せぬ口がささやく日の秘密  
 ヒソヒソが聞こえてならぬ裸の王  
 ささやきがフェイクに化けて炎上し

久保あざみ  
 福田 芳詔  
 久保あざみ  
 福田 芳詔  
 久保あざみ  
 木村奈生美  
 瀧尻 善英  
 斉藤 蛙井

【秀逸】

ささやきがネットの海で大炎上

瀧尻 善英

生き下手でささやきばかり気にかかる

木村奈生美

【特選】

耳元で勝利導く名コーチ

瀧尻 善英

■席題 『つさやく』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

財布から「今月赤字」とささやかれ  
 新米のつやが囁く味・香り  
 施錠せぬ口がささやく日の秘密  
 難聴にささやいてるは悪夢だけ  
 パリにでも居るよに枯葉ささやくよ  
 ささやきがフェイクに化けて炎上し  
 点滴のささやく音に聴き入って  
 ささやいたつもり筒抜け拡がった

久保あざみ  
 福田 芳詔  
 木村奈生美  
 村上 昌子  
 村上 昌子  
 村上 昌子  
 斉藤 蛙井  
 福田 芳詔  
 斉藤 蛙井  
 久保あざみ  
 木村奈生美

【秀逸】

木枯らしに大丈夫だとささやかれ

久保あざみ

生き下手でささやきばかり気にかかる

木村奈生美

【特選】

耳元で嫌な上司の皮肉聞く

高田 幸柳



■宿題 『サバイバル』

久保あざみ 選

【平抜き】

これからは武器より自然とサバイバル  
 サバイバルも敗れた影法師  
 働けど手を見るゆとりなき今は  
 この子等が巣立つ社会はサバイバル  
 希望なし国民無視でサバイバル  
 サバイバルゲーム戦後はまだ続く  
 井の中の蛙世界とゲームする  
 サバイバルでござしおれたスギ坊主  
 サバイバルその向いにも闇が待つ  
 自然から持ちかけられるサバイバル

村上 昌子  
 斉藤 蛙井  
 漆館ミノリ  
 高田 幸柳  
 高田 幸柳  
 城後 朱美  
 村上 昌子  
 斉藤 蛙井  
 村上 昌子

【秀逸】

サバイバル僕はいつでもチャレンジャー  
 増税に年金減らしサバイバル

瀧尻 善英  
 漆館ミノリ

【特選】

車いす指定券までサバイバル

磯島 雅男

■宿題 『寂しい』

齊藤 蛙井 選

【平抜き】

寂しさに触れて覚えた人の恩  
 夕焼けて寂しい陰を一つ踏む  
 満車のパチンコ店に寂しさを  
 郊外の田畑荒れるがまま寂しい  
 さみしくて再び檻の中にいる  
 ホラーより怖い孤独死する末路  
 寂しいと言わぬ男のいくじなし  
 町中の歯抜けるごとく空家あり  
 またひとり村の若者去っていく  
 少子化がシャッター街を作り出す

木村奈生美  
 磯島 雅男  
 漆館ミノリ  
 漆館ミノリ  
 城後 朱美  
 瀧尻 善英  
 城後 朱美  
 漆館ミノリ  
 瀧尻 善英  
 瀧尻 善英

【秀逸】

ただいまと仏間に灯り声はなし  
 寂しいと言えばハクシヨン大魔王

久保あざみ  
 高田 幸柳

【特選】

老犬のぬくもりはない秋の暮れ

久保あざみ

■宿題 『やまやま』

互選

- ①さまざまな種こぼれだす枯野原
- ②様々な御託並べた委任状
- ③人生は寄せ鍋旨い味が出る
- ④さまざまな山川道で生きて行く
- ⑤様々な恋につまづきまたブルー
- ⑥さまざまな出会い心の窓を開け
- ⑦様々なお面はずして笑い皺
- ⑧人生の半分いい事わるい事
- ⑨三角も逆三角もあつた道
- ⑩趣味仕事さまざま有って夢も有る

斉藤 蛙井  
 高田 幸柳  
 久保あざみ  
 久保あざみ  
 高田 幸柳  
 木村奈生美  
 村上 昌子  
 瀧尻 善英  
 瀧尻 善英  
 木村奈生美

十和田たてがみ川柳会1月句会

【時】 1月19日(土) 午前10時00分から 【所】 十和田  
 労働福祉会館 【宿題】 (各題三句詠) 『すつきり』 久保  
 あざみ選 / 『直ぐに』 齊藤 蛙井選 【互選】 (二句詠) 『ス  
 タート』 当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】  
 一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者  
 から一名 【投句先】 〒034-0049 十和田市西二十二番  
 町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳

川柳作品をお待ちしております。

■題「時事川柳」むさし選

時事川柳をひとり何句でも。郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ  
 下記へ投句して下さい。

【投句先】 メール：aomori@yomiuri.com 「よみうり文芸」時事川柳係  
 ハガキ：〒030-0801 青森市新町2-2-4 新町二丁目ビル6階  
 読賣新聞青森支局 「よみうり文芸」時事川柳係

【掲載】 毎週火曜日 / 【賞】 秀逸には図書カードを贈呈



川柳作品をお待ちしております。

■題「自由詠」Sin選

ハガキの表に「川柳」と明記し、ハガキ裏に作品(何句でも)、郵便番号、住所、  
 氏名、電話番号を明記し、下記までお送り下さい。

【投句先】 メール：tky.aomori@mbx.mainichi.co.jp 「毎日新聞・川柳」係  
 ハガキ：〒030-0803 青森市安方2-8-10  
 毎日新聞青森支局 「毎日新聞・川柳」係まで

【掲載】 毎週金曜日掲載

【賞】 月間賞、年間賞には図書カードを贈呈



□ **2019.02.10 寄生木さんを語る会**

【日時】平成31年2月10日(日)13時～ 【場所】青森市古川「サッポロビアレストラン910」【宿題】「寄」高瀬霜石選 「生」太田久選 「木」野沢省悟選 【賞】各題特選2句に賞品 【会費】3,500円 【参加】2月4日(月)までに寄生木さんへの「追悼句1句」と「出・欠」の有無を記入し野沢省悟まで送って下さい。 ※参加できない方は追悼句を募集しますので、野沢省悟へ送って下さい。 ※準備等のため当日の突然参加はご遠慮ください。 【連絡先】〒038-0004 青森市富田2丁目7-43 野沢省悟 電話・FAX.017-782-1447 ◎当日は、寄生木さんの思い出を、参加者の皆さまとゆっくり語り合いたいと思います。【発起人】高瀬霜石・太田久・野沢省悟

□ **2019.01.15 ♪ 第七回卑弥呼の里誌上川柳大会**

【兼題と選者】(各題2句)『自由吟』野沢省悟・森中恵美子共選/『何故』間瀬田紋章・大西泰世共選/『リアル』吉崎柳歩・樋口由紀子共選/『呼ぶ』森山文切・赤松ますみ共選/『鮮やか』月波与生・木本朱夏共選【参加費】1,000円(切手不可)発表誌呈【締切】平成31年1月15日(火)(消印有効)【投句先】〒842-0103 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲2426-2 卑弥呼の里川柳会 真島久美子 電話・fax 0952-52-1061【賞】各題特選1句・有田焼1万五千円相当/各題佳作5句・図書券(その他サプライズ賞あり)

□ **2019.01.20 第83回新春川柳大会**

【日時】平成31年1月20日(日)午前9時受付開始(席題発表午前10時)【会場】弘前プラザホテル(弘前市代官町101-1)TEL0172(35)0345(弘前駅より10分)【会費】4000円【宿題】(2句詠・共選)投句拝辞\*採点 宿題・席題とも秀句3句=2点・佳作30句=1点『味』笹田かなえ・三浦蒼鬼『カタログ』田沢恒坊・成田我楽『望む』岩崎真里子・佐藤ぶんじ『事件』むさし・長谷川酔月『ほかほか』工藤青夏・渡辺松風【席題】(2句詠・共選『 』沢田百合子・太田久『 』熊谷冬鼓・野沢省悟【我洲杯】(1句詠・5人共選)\*採点 秀句1句=2点・佳作15句=1点『巢』鈴木さくら・佐藤雅秀・柳田健二・工藤まさひろ・八木田幸子【賞】宿・席題合点により1位に紗光杯、2位に寿久杯、他20位まで/我洲杯3位まで/宿泊希望の方は1月10日までに、次へご連絡下さい。〒036-8227 弘前市桔梗野3の3の3 千島鉄男 TEL0172(34)3392【主催】弘前川柳社【後援】弘前文芸協会

□ **2019.01.31 ♪ 第8回「ふるさと」川柳募集**

【課題】『流』(1口2句提出・12人による共選・複数応募可・清記選)【選者】磯松きよし(北海道)・高瀬霜石(青森)・尾藤川柳(東京)・山倉洋子(新潟)・丸山進(愛知)・玉置和美(岐阜)・阪本高士(奈良)・小池正博(大阪)・小島蘭幸(広島)・吉松澄子(愛媛)・石神紅雀(鹿児島)・浅利猪一郎(仙北)【締切】平成31年1月31日(消印有効)【投句料】1,000円(切手不可・小為替等使用のこと)(誌上大会用投句用紙他便箋等使用 2句を1枚の用紙に記入のこと投句用紙コピー可)【賞】最優秀賞1点(樺細工色紙掛 仙北市産品)/優秀賞2~10位(仙北市産品)☆応募者数により増設あり【投句先】〒014-0602 秋田県仙北市ひのきない字長戸呂85 浅利方 第8回「ふるさと」川柳事務局宛【発表】柳誌「湖」8号(平成31年4月発行予定応募者全員に送付)【問合せ】浅利猪一郎川柳事務所まで 電話・Fax0187(48)2236 eメール iichiro@hana.or.jp

## 『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時~14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

\*\*\*\*\*

□ 1/8(火)「猪」 □ 2/12(火)「毒」 □ 2/26(火)「旅」 □ 3/12(火)「噂」

□ 3/26(火)「嘘」 □ 4/9(火)「二人」 □ 4/23(火)「刺す」

\*\*\*\*\*

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3  
むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail: hmusashi@r66.7-dj.com

**おかげようき川柳社 作品募集案内**

**2018.11.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳むさし流**

毎週土曜日お昼12時から放送中！ 入選→秀逸→特選 と3句ずつ入選句を紹介。11月15日締切。12月放送【題】「計算」【投句先】〒030-0812 青森県青森市堤町1丁目7-19(株) エフエム青森 チャレンジ川柳！むさし流係  
※FM青森のホームページからも投句できます。

**2018.11.20 おかげようき会員雑詠集「無人駅」5句(1月号分)**

【締切】11月20日必着【掲載】1/10発行号【提出先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>

**2018.12.01 おかげようき川柳社 川柳忘年会 2018**

【日時】12月1日(土)13時～【場所】ラ・プラス青い森(青森市中央1-11-18) ☎017-734-4371【会費】4,000円(句会・懇親会費)【席題】2題各3句詠・2人共選

**2019.01.05 おかげようき川柳社本社 1月句会**

【時】1月5日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【宿題】(各題3句詠『留』/『カバー』/『自由詠』選者は当日決定【席題】1題3句詠・2人共選/席題の欠席投句拝辞【研究吟】自由詠1句【投句締切】句会前日必着【投句先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>

**##### エッセイをください! #####**

内容は自由、字数800字程度(用紙は自由・メール投稿歓迎)で締め切りは毎月15日。なお、いただいたエッセイを掲載するかしないか、掲載する順序などは編集者が判断しますのであらかじめご了承ください。

送付先: 〒039-3502 青森市久栗坂浜田87-2 熊谷方  
おかげようき川柳社 エッセイ係  
toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

会員雑詠「無人駅」投句用紙	柳号
	住所
	府 県
	町 区 市

※楷書でハッキリとお書きください。

※この用紙を切り取るか、コピーしてお使いください。


★お気に入りの一句(最新号からお好きな作品一句と、それに対する簡単なコメントをお書きください。)

コメント

【投句先】  
〒030-0861  
青森市長島4-23-4-102  
守田啓子 宛  
FAX.017-723-5696

■会費拝受（11月受付分）

笹田かなえ（八戸市）

■おかげょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

--- 終着駅 Sin ---

◆あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます◆さて、第23回杉野十佐一賞が決定しました。吉松澄子さんの「別室の黒羊羹はどうなるの」が大賞となりました。おめでとうございます(^o^)/なんと、吉松さんは第17回の大賞受賞した榊陽子さんのお母さんということで、とんでもない親子ですね(笑)◆今回の十佐一賞の題は「黒」でしたが、書きやすくもあり、書き難くもあり、選びやすくもあり、選び難くもあり、という題だったようで、作者や選者の嗜好が全面に出してしまう題なのかもしれません。選者6人の特選句が、他の選者の秀逸に選ばれていないことから、そういう傾向が強かったと言えるでしょう◆さて、大賞句。初見は、ただの

食い意地の張った人のつぶやき程度にしか見えなかったのが(笑)、特選に選んだ広瀬ちえみさんの選評に「ただの羊羹が「別室」という言葉と出会ったことで、ミステリーになった。」とあります。そうか、ミステリーか。そう言われれば、もうそうにしか見えなくなってくる(笑)「黒羊羹」をメタファーとして捉えなくとも、例えば「死体」「人質」「子供」「札束」といった暗号的な隠語だとしたら…。頭の中でミステリーが無限に広がって、その先の社会問題的な部分まで辿り着けそうです◆さて、今年も川柳が楽しくなる企画をどんどん実験していきたいと思っていますので、あまり生真面目に考えず、楽しみながらご参加ください。皆さんがこの一年、川柳を楽しめますように◆ Sin



